

講読 memo

■ 「文化のモデルとしての言語 - 新しい言語観 (3)」 p.22

- ・ 「文化」=「人間によって生み出されたもの」(p.22) = ※ 人間による意味づけ・価値づけの営み
- ・ ※ 『『特殊』を『一般的』に含ませるのが、文の基本的構造で、
〔本来は〕それを逆にはできない(佐々木健一『論文ゼミナール』175頁)。
- ・ 主語 = 特殊、 述語・補語 = 一般
- ・ ○ 鈴木一郎は、人間である。 × 人間は、鈴木一郎である。
- ・ だから、本来は、...
 - 「言語は、文化である」 × 「文化は、言語である」(言語に特別な強調がある表現) c.f. p22
 - 漫画は、文化である × 文化は、漫画である (文化というものは、およそ、漫画によって示されるの意)
- ・ 『『文化は言語である』...、このような見方をすることは、
言語は文化の一部でありながら、同時に文化の中でも特別に重要な地位をしめているということを認めることである」
(p. 22)

■ 「絵画・映画・物語」 p.26

- ・ 「ポエティーク」(仏 *poétique*, 英 *poetics*) : 「詩学」 = 「根源的には創造的の意」 p. 26
- ・ ※ 「ポエム」(英 *poem*) 「詩」の語源
「ギリシャ語『ポイマ』 *poema, poiema* : 『作品、詩』(作られたものが原義)
ギリシャ語『ポイエイン』 *poiein* : 『作る、創造する』」
(下宮忠雄ら『スタンダード英語語源辞典』大修館書店、1989年、387頁)
- ・ 「ランガージュ」、「ラング」、「パロール」 → 配布資料参照(岩波哲学思想事典 p. 1662, 1293)。
- ・ クリスチャン・メッツ (Christian Metz, 1931-1993) フランスの映画理論家。記号学を映画批評に取り入れた。
主著『映画記号学の諸問題』、浅沼圭司訳、書肆風の薔薇、1987年

